

バックパッカーと
生粋のダイバーが
混在する楽園



タオ島はマレー半島を挟んで東側のシャム湾に浮かぶ、南北に7km、東西に3kmの小さな島。サムイ島から約60km北にあるこの島は、近年、日本でもダイビングエリアとして注目されている。以前は世界各国からやって来るバックパッカーの島として有名だったが、現在はダイビング目的に来島するゲストも多く、その2種類の旅行者が混在している。タオ島を含むシャム湾は大きな内湾で、独特の生態系も持つ不思議な海。ジンベイザメとの遭遇が期待されるチュンポンピナクルなどの3大BIGポイントやビーチエントリーでもフィッシュウォッチングが楽しめるサイリービーチなどタオ島でのダイビングは魅力満載だ。



タオ島

夕暮れ時、サイリービーチはロマンティックな楽園の時間に変化する(左)ナンユアン島の頂上からの眺めはとも美しい(写真・越智隆治/中)1日のダイビングを終え、サイリービーチに帰ってきたダイバーたち(右)



大きなチムニー(トンネル)など面白い地形ポイントでもあるセイルロック



ハナヒラクマノミの群生。その数の多さは半端ではない

3大BIGポイントの魅力

タオ島のポイントがあるシャム湾は広大なエリアの浅場で、最大水深でも60~70m。大物との遭遇率が高い、チュンポンピナクルやサウスウエストピナクル、セイルロックはその浅場に突然として現れる巨石のポイントで、様々な魚の格好の隠れ家であり、多種多様な海洋生物の集合地となっている。透明度が安定しないため、マクロの小さな生物が注目されがちなタオ島だが、実は、圧倒的な魚群を誇るBIGポイントが3つも存在している。

驚くのは潮の流れがほとんどないに魚影の濃さは抜群で、沖合いのポイントでありながらもビギナーからエントリーすることができるが魅力。特にチュンポンピナクルやサウスウエストピナクルはタオ島からも近く、気軽にデイトリップで楽しむことができ、ワンランクアップのスキルの必要とするアドバンスの

ポイントというイメージはない。今回、遭遇したホソヒラアジとキンセンフエダイの群れは、遠くから確認した時はまるで雲のように中層に浮き、近づくと、パツクリと私を飲み込んでしまった。その豪快な食いつき方に戸惑いながらも幸せな気持ちでいっぱいになるポイント。セイルロックは地形と大物を楽しむことができる。巨石の浸食により出来たチムニー(トンネル)と呼ばれる堅穴があったり、ギンガメアジの壁や100匹を越すツバメウオの群れ、バラクーダの群れなど見所はたくさん。カジキと遭遇することもあるという。また、ツキチョウチョウオの群れや根一面に広がるイソギンチャクとハナヒラクマノミなど、シーズンを問わず、他の海では見られない一風変わったタオ島ならではの景観も楽しむことができる。



ホソヒラアジの群れ、全体はトルネードのように渦を巻いていた(上左)
ツキチョウチョウオの群れは、タオ島でしか見られない珍風景(上右)
ビッグブルーのダイビングボート「バンザイ号」は居心地抜群(左)

バックバッカーと生粋のダイバーが滞在する楽園 **タオ島**



(写真上左から順に)オイランハゼの求愛ディスプレイ(写真・越智隆治)／インギンチャクの超接写／縄張りを守るメタリックシュリンブゴビー(写真・越智隆治)／サンゴの隙間に居た貝の種類を超接写。まるで怪獣・カネゴンのよう／ギンガハゼの超接写。ひょうきんな顔がかわいい／黄色と黒のギンガハゼのペアもよく見かける／ゴルゴニアン・シュリンブの超接写。色のバリエーションも豊富／タオの海の紅一点、アカオビハナダイ(写真・越智隆治)／高台からサイリービーチの一部を見下ろす

偏狂的タオ島マクロ街道

透明度は決して良い海とは言えない栄養豊富なタオの海は、マブールやシパダンの海の色に似ているのかわれない。

タオ島の海の特徴は偏った生物層で、他の海域では珍しい生物が多い。逆にいえば、一般種は少ない＝弱点ではなく、それが、この海の特徴であり、好みの面白さでもある。ハナダイ類はアカオビハナダイだけで、ヤッコ類はワヌケヤッコとロクセンヤッコの2種類のみ。人気のあるゴルゴニアンシュリンブはホストなるムチャギ類が多いせいか、たくさん見つかる。

またタオ島のマクロ住人で特に面白いのが、ハゼの

仲間である。全然ダイバーを気にすることもなく、砂地のあちこちでたくさん見かけることができる。黒&黄色のギンガハゼのペア、求愛ディスプレイするオイランハゼ、そしてメタリックシュリンブゴビーにミジンベニハゼと人気種が勢揃い。一度ガイドさんに見つけ方のコツを教えてもらって、自分でも、どんどん探せるようになる。そして、嬉しいのが全然逃げない個体が多いこと。カメラのレンズを鼻先いっぱいまで近づけても逃げる気配がない。その他にアカオビハナダイの紳士協定であるクラスダーリングやウケケチノホソミオナガノオキナハギという日本一長い名

前をもつ魚などもチェックしたい。

広大なシャム湾で偏狂的なマクロの生物と対峙する。これもタオ島でのダイビングの魅力のひとつだ。

サイリービーチ Sai Ree Beach

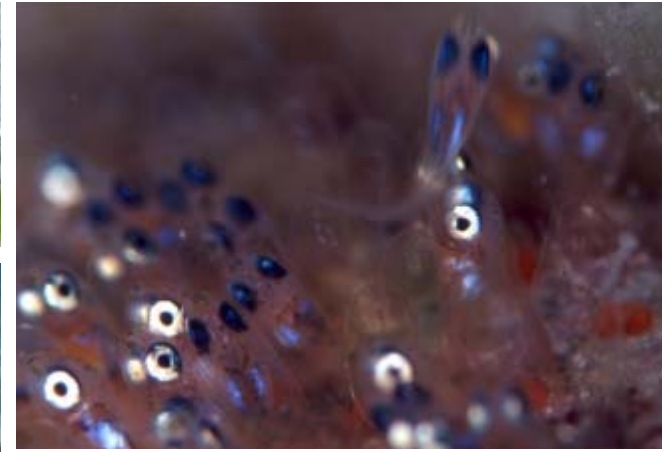
南北に2kmに延びるビーチにあるビッグブルーのオリジナルポイント。潜水エリアが広大なため、ビーチエントリー、若しくはポートダイビングで楽しむことができる。なだらかに落ち込む傾斜で、波うち際から傾斜、サンゴ礁、砂地など異なったエリアがあり、そ

こに生息する多種多様な生物を楽しむことはできる。トウアカクマノミのコロニーやオイランハゼの求愛ディスプレイ、ハゼ各種など見どころはたくさん。また、スズメダイやチョウチョウウオ、キンチャクダイなどの幼魚の隠れ場となっている。3大BIGポイントと2本柱でもある人気の高いポイント。ビッグブルーではガイド付きで1～2時間かけて、じっくりこのサイリービーチを観察、又は撮影できるダイビングスタイルも用意している。

現地ガイド、大村健、楠哲也が激写した！ トウアカクマノミ&ジンベイザメ タオ島の2大エンターテイメント



タオ島の海はこんな感じでジンベイザメと一緒に泳ぐことができる写真家 楠哲也



ハッチアウトを助けるお母さんクマノミ (写真・大村健/左上)
こんな感じで撮影することができる (左下)
感動のハッチアウトの瞬間。誰もが生命の神秘を感じるという (写真・大村健/上)

神出鬼没のジンベイザメ

遭遇率自体は、「ジンベイザメに会える海」と呼ばれている他の海に比べると低いですが、一度、出現すると、ポイントの周辺をグルグルと回遊するため40~50分間は十分に一緒に泳げてしまうというから驚き。また、ほとんど潮の流れがなく、ビギナーからも楽しめるポイントで遭遇できるということも嬉しい。ジンベイザメは何度もダイバーの間を泳ぐので、フィンキックを

して追いかける必要もなく、ガイドさんの指示に従って、待っていると、ジンベイザメが向こうからやってくるという。また、一緒に泳いでいる時間が長いので、簡単なデジタルカメラでもジンベイザメに慣れ、落ち着いて写真が撮れる。その証拠に、ビッグブルーのHPのジンベイ・フォト・コンテスト <http://www.bigbluediving.jp/>を見て頂きたい。撮影したのはビギナーからベテランまで、実に様々な角度

やカメラでジンベイザメを激写している。驚くのはたくさんのダイバーに囲まれるジンベイザメの写真、よく言われるダイバーの吐くエアーを嫌がることもなく、むしろ好んで遊んでいると言う。

遭遇できるポイントは3大BIGポイント(チュンボンピナクル、サウスウエストピナクル、セイルロック)で、素通りする個体もいるが、ラッキーな場合だと、一日中~約1週間は同じポイントに居付くという。タイミングが合えば、「もうジンベイザメは充分！」という贅沢なダイビングも……。

ジンベイザメにシーズンはなく、基本的に通年見られる可能性がある。特に水温が高くなることが関係するのか、4~5月の間が一番遭遇率が高い。また、11~1月は海のコンディションが安定しないため、ジンベイザメとの遭遇率が高い、3大BIGポイントへのアクセスが悪くなるので可能性は減少する。

トウアカクマノミの物語

タオ島でのダイビングで是非、参加して欲しいもののひとつが、トウアカクマノミの産卵&ハッチアウト。

今回、現地でお世話になったビッグブルーは2001年の1月より定点観測を精力的に行っている。ショップ目の前のサイリービーチには、トウアカクマノミのコロニーが30ヶ所あり、それぞれのトウアカクマノミを、長期観察、データベース化することで、ほぼ100%近い確立でトウアカクマノミのハッチアウトに立ち会えることができる。

各コロニーのメスの成熟度により、産卵サイクルが異なるため、1ダイブで、様々なステージの卵の段階が見られ、物語を紡ぐようにハッチアウトまで楽しむことができる。

このタオ島のトウアカクマノミに関しては、生態などで有名な水中写真家の大方洋二さんに「トウアカクマノミに関して世界一ですね」と唸らせたほど。他の海とは違い、年間を通していつでも産卵&ハッチアウトを行っているため、観察が簡単なのだ。また、これは決してマニアックな生態好きのダイバーのためのものではなく、一般のダイバーにも楽しんでタオ島ならではのエンターテイメントだ。



大村 たけし
ビッグブルー日本人代表

タイの持つ海の魅力を引き出すべく、二つの大洋を又にかけて活躍中。趣味は水中写真で、愛を込めて我が海を撮り続ける。大物、マクロ、レア物、生態、カメラ、何でもお任せ！

タイの二つの海

タイは、非常に細い長い半島『マレー半島』に区切られた、二つの全く異なる海『太平洋シャム湾』と『インド洋アンダマン海』を持ちます。二つの海は、正反対のシーズンリティーを持ち、シャム湾は春から夏に、アンダマン海は冬場にシーズンを迎えます。つまり、タイの海は、一年中どちらかにハイシーズンの海を持っています。それぞれ異なる特徴を持ち、独特の生態系が育まれているため、同じタイの海とはいえ、全く異なる質のダイビングを楽しむことが出来ます。シャム湾は閉鎖的な海域で、他の海では見られない、珍しい生物が普通に見られたり、求愛や産卵などの生態のドラマを狙いに行くのも簡単な環境が揃っています。アンダマン海には日本人ダイバーにとっては、珍しいインド洋やアンダマン海ならではの固有種がたくさん見られます。どちらも面白く、長い間潜っていても、毎日新しい発見で一杯で飽きません。タイの海の持つポテンシャルを引き出すことに熱中しています。



楠 哲也
ビッグブルータオ島店
マネージャー

タオ島店の現場の切り盛りを担当。キメの細かいガイドングやティーチングにも定評あり。暇を見つけては水中写真に没頭する、根っからのフォト派ダイバーでもある。

フォトフィールド、タオ島

ジンベエ、群れ、マクロ。タオ島で撮影しているときに思うのは、「撮りやすいぞっ、ココ！」ですね。歩いて0分、ショップの目の前水深1メートルのオイランハゼディスプレイやトウアカクマノミのハッチアウトなどをハウスリーフで難なく撮影。近場ポイントではレンズとハゼの距離が10cmなんてあたりまえ！近寄りすぎて引込ませてしまっても違う個体がすぐ横にいますので全く気にせず大胆に近寄ることが出来ます。さらにボートで30分程行くだけの深場ポイントでは、フィッシュアイで有り余るほどのホソヒラアジの大群に超接近。果ては一度ジンベエが出始めたら、チュンポンピナクルで毎日撮影練習。ログ付けは明日のジンベエ撮影討論会です。様々な撮影対象をポイントへのアクセスの良さと生物へのアプローチのしやすさで決定的瞬間、最高の一枚をゲット！撮れば撮るほど上手くなる、フォトフィールドとしてのタオ島をご賞味ください。



手嶋 菜穂美
ダイビングインストラクター

札幌出身だが、南の島に魅せられ、気付けば島暮らしを始めてはや……年。海の魅力、特にマクロの世界にどっぷりハマってしまった。趣味は美白ですが、毎日潜ってます。

ハッピー・タオ島・ライフ

先日、ネットサイトで『南の島移住計画』を見ると、住みたい島で我がタオ島がランクインされていました。世界中のあらゆる海、島がある中でタオは間違いなくスペシャルな場所の一つです。一言でいうとダイバーにとってバランスの取れた島。小さな島ですが、周りにはダイブサイトが点在していて、移動距離が短く、無理なく1日5ダイブが可能。ダイブサイトには巨大な隠れ根があり、流れが無いのに大物回遊魚にも出会えます。そして島ライフは自然が残り、小さい島だけにどこにいても、海を感じる事が出来ます。夜は満点の星が当たり前。素朴だけど田舎過ぎず、レストランも充実。昼間はダイビング、夜はゲストと共に食の会。タイ料理はもちろん、イタリアン、メキシカンなどの美味しく、値段は安くレベルは高い！もともと札幌育ちの私は南の島で暮らすのが夢でした。ダイビングがあり、椰子の木があり、満天の星に囲まれる暮らしは私のハッピーライフなのです。



岡田 明日香
ダイビングインストラクター

若手のホープと言いながら、既にタオ島歴は5年を数え、タオ島の海だけで3000本近くのダイブをこなしている実力派。三度の飯より海が大好き。休日も返上で潜り続ける。

生命のドラマを感じる海

年中穏やかなタオの海、同じ水中生物をひたすら眺めていることができるのも魅力の一つ。毎日同じ場所ですら同じ魚たちに出会っていると彼らの生活を垣間見ることが出来ます。中でもここ数年ショップで力を入れているのが、目の前のサイリービーチに生息するトウアカクマノミの生態観察。「今日はどこの子が卵産んでるかな？」と、暇を見つけては約30ヶ所のコロニーを定点観測しています。気軽に行けるのでファンダイバーのお客さんともしょっちゅう潜れます。運がよければ丁度産卵の場面に遭遇することも。多少マニアックなダイビングですが、ここで初めて生態にはまった方も多いのでは？日々のデータをもとに随時ハッチアウトツアーを開催しており、これまでもたくさんのお客さんと一緒に見に行きました。ハッチの瞬間は何回見ても本当に素敵。小さな卵たちが一気に夜の大海原へ旅立って行く光景に見惚れます。タオ島にお越しの際にはぜひ見ていただきたいですね。

ビッグブルーのスタッフ



ビッグブルー ダイビングタイランド

タオ島で唯一の日本人のSHOPを構えるダイビングリゾート。マレー半島の太平洋側であるアンダマン(カオラック)に拠点を置き、年間を通して海のハイシーズンをゲストに提供している。スタッフは総勢約10名で、シーズンによって多少の変動はある。ビッグブルーのハウスリーフでもあるサイリービーチでのトウアカクマノミの定点観測などの生態観察にも定評があり、スタッフ自身も水中撮影を行うのでフォト派ダイバーへのケアも抜群。大村健さんを初め、「ビジュアル系のサービス？」とのこと(笑・スタッフ談)。リピーターも多く、現地で知り合ったゲストがタオ島で再会することもよくあるとのこと、ひとりで来島しても、すぐに仲間になれる雰囲気作りができています。(http://www.bigbluediving.jp)

タオ島の陸&ホテル



世界中の若者がこのビーチを求めてやってくる(サイリービーチ/上)
自由な雰囲気溢れるビーチ(右)



サイリービーチ Sai Ree Beach

タオ島の西岸に広がる島で一番大きなビーチで南北2kmに渡る。ビーチ沿いには遊歩道があり、コンビニ、レストラン、バー、銀行、インターネット、マッサージ屋などが軒を連ねる。ここ数年でいろんなお店ができ、大変便利になり、散策するのも簡単。世界各国からのバックパッカーや観光客で賑わう。タオ島の魅力は片意地の張らない自由な雰囲気や居心地の良さ。「ザ・ビーチ」の原作の舞台のひとつでもあり、楽園を探す気分な若者も多く、またそのエネルギーに溢れている島でもある。

タオ島には4、5星の高級リゾートはないが、素朴なコテージタイプからナチュラルでセンスの良いリゾートまで、旅の目的にあったリゾートを選択できる。

とことんダイビングを堪能したい方にお勧め ビッグブルーダイビング・リゾート

ダイビングに対するアクセスの良さを重視するのならば、ビッグブルーダイビング・リゾートがお勧め。ダイビングセンターのエリア内にあるリゾートで、ポートが出る海岸線にあり、目の前のビーチからダイビングボートが出航したり、ビーチダイビングにエントリーできるので何かと便利。室内はシンプルだが、エアコン、温水シャワー、バスタブ、冷蔵庫を完備。リーズナブルに旅を楽しみたい方のためのリゾート。また、観光客で賑わうサイリービーチの真中に位置し、コンビニ、レストラン、バー、

銀行、インターネット、マッサージ屋などが近くにある。

のんびりリゾート気分を満喫したい方にお勧め コ・タオ・カバナ

サイリービーチの北端の高台に位置し緑に囲まれたセンスの良いリゾート。広大なエリアをふんだんに使い、自然の巨石や巨木はそのままに自然と調和したリゾートの設計となっている。コテージやWHITE SAND(ホワイトサンド)と呼ばれる円形のバンガローもこだわりのある内装で、半屋外のシャワールームなど南国リゾートの雰囲気を楽しむことのできる。コテージのテラスやレストランから水平線に沈む夕日を楽しめるなど最高のロケーション。アフターダイブはのんびりと過ごしたい方にお勧め。日本人専用SHOPのビッグブルーチャバまで徒歩6~7分。



ビッグブルーダイビングリゾートの客室内(左)
ダイビングセンターにはレストランが併設されている(右)

コ・タオ・カバナの客室内(左)
コ・タオ・カバナは自然と調和したリゾート(右)



バックパッカーと生粋のダイバーが滞在する楽園 **タオ島**

アフターダイブはスパタイム



スパの総合施設「ジャマキリのエントランス」

Jamahkiri (ジャマキリ)

緑に囲まれた高台にあるスパの総合施設。タイマッサージ、オイルマッサージ、フェイシャル、ボディラッピングなど様々なメニューが用意されている。広い施設内にはレストランやバーもあり、アフターダイブで半日はのんびりと過ごすことができる。島の南端に位置するため、専用の送迎車で迎えに来てくれる。

Orchid Spa (オーキッド・スパ)

サイリービーチにあるタイマッサージ屋で、ビッグブルーから歩いて約10分。気軽に行けるため、ダイビング後のマッサージなど日本人ゲストにも人気のお店。お薦めのマッサージは2時間約400バーツ

現地ガイドおススメレストラン

タイ料理やイタリアンなどの欧米系のレストランが多い。タオ島、特にイタリアンは本格的な味が楽しむことができる。予算はタイレストランの場合、ビール1本飲んで、50~100バーツ。イタリアンの場合は150~300バーツで楽しむことができる。SHOPで知り合ったダイバー仲間などと大勢で食事に行けば、様々な料理を楽しむことができ、かつリーズナブルになるのでお得。



Thipwimarn (ティプウイマン)

海を一望できる高台にあり、眺望がとても良い。現地でもお薦めのタイレストランで、半屋外と屋内のテーブル席がある。午後のひと時をのんびり過ごしたい方にお薦めで、サンセットなども楽しむことができる。お薦めはマサマンカレー(120バーツ)



Farango Pizzeria (ファランゴピッツェリア)

ビッグブルーのスタッフがオススメのイタリアン・レストラン。通りに面したオープンテラスがオシャレな店舗で、本格的なイタリア料理を安価で楽しむことができる。ビーフのカルパッチョ180バーツ。ピッツァ120~240バーツ、パスタ90から330バーツ、ビール60バーツ~。(05年6月現在、1バーツ=約2.7円)

独特の雰囲気の魅力なプティックリゾート、ムアン・クライバン



専用の送迎車で移動もスムーズで楽チン



美しいビーチがある家という名のバン・ハード・ガム(左)ファミリーで楽しめる滞在型リゾートのプティックリゾート(中)ムアン・クライバン(右)ムアン・クライバン

サムイ島情報

クラブアズールなら、サムイ島での移動もスムーズにサポート

クラブアズールは、ホテルからサムイ島からタオ島に渡る高速フェリーの港まで、専用車で送迎してくれる。

タオ島行きのフェリーの港までの移動が、わかりやすく、また、荷物の多いダイバーは船会社の送迎だと、ギューギューで大変。クラブアズールなら専用車+日本語を話すことができるガイドがサポートしてくれるので、早朝の移動も快適&スムーズに行なうことができる。

タオ島からサムイ島へ午前中に移動して、サムイ島観光を楽しむ。

サムイ島はタイで3番目に大きい島で、プーケット、パタヤに続くタイの有名リゾート地。近年リゾート化が進み、高級ホテルやレストランなどで賑わう。特に島の東側チャウエン・ビーチはサムイ島でもっともにぎやかなエリアで、昼間と夜はまた違った雰囲気を持ち、ショッピングや観光、スパなど楽しむことができる。リゾートもナチュラル志向のものからデザイナーズホテルまであり、好みに合った滞在先を選択できる。※クラブアズールでは、バンコクでも出発までバンコク観光オプションツアーで楽しむことができる。